

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-96	実施計画番号	122	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	おいしい十和田野菜の健康な土づくり事業			事業終了年度	平成28年度
担当課名	農林畜産課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	ミネラル野菜に係る土壌診断に要する経費の一部を助成する。				
事務事業の目的	十和田市産野菜の品質、収穫の向上及び施肥コスト削減を図るため、健康な土づくりによる野菜の生産規模の拡大を図る。				
実施状況	ブランド野菜を販売するための土壌診断に対してその経費の一部を補助する				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	20	20	20
	人件費(千円)	720	720	720
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)	3,021	3,214	5,000

【指標】

活動指標	活動指標名①		土壌診断補助件数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			件	2,418	3,000	4,000	
	活動指標名②		土壌診断を実施した人数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			人	661	820		
成果指標	成果指標名①		土壌診断件数				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			件	目標値	2,500	2,500	4,000
				実績値	2,418	3,068	
				達成度(%)	97%	123%	
	成果指標名②		補助金額				
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定	
			円	目標値	3,125,000.0	3,125,000.0	5,000,000.0
			実績値	3,020,750	3,123,224.0		
			達成度(%)	97%	100%		

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A 2	4	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田市産やさいのブランド力向上に繋がるため、事業の妥当性は十分にある。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	十和田市産やさいのブランド力向上に繋がるため、事業の妥当性は十分にある。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
十和田市産やさいのブランド力向上に繋がるため、事業の妥当性は十分にある。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A 2							
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">十和田市産野菜の品質向上に必要な事業である。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	十和田市産野菜の品質向上に必要な事業である。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	十和田市産野菜の品質向上に必要な事業である。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A 2							
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A 2							
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2	6	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">農家が野菜の品質向上のために行う土壌診断に対して補助しているものであり、効果的な事業である。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	農家が野菜の品質向上のために行う土壌診断に対して補助しているものであり、効果的な事業である。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	農家が野菜の品質向上のために行う土壌診断に対して補助しているものであり、効果的な事業である。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A 2							
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B 1	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">2 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">現在はミネラル野菜の圃場となっているため、全農家を対象にする必要がある。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	2 / 4	現在はミネラル野菜の圃場となっているため、全農家を対象にする必要がある。	
	受益者負担適正化の余地	2 / 4								
現在はミネラル野菜の圃場となっているため、全農家を対象にする必要がある。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B 1							
現在の適性					18 / 20	改善の余地	2 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **18** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **2** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

公平性を改善して継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

十和田野菜のブランド力強化のために、全農家を対象に行う。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

農家の負担軽減と十和田野菜の品質向上のため、継続して行う。